

株式会社 植松電機 [赤平市]

- ・代表者 代表取締役 植松 清
- ・事業内容 車載搭載型低電圧電磁石システムの設計・製作・販売
ハイブリッド型ロケットエンジンの開発
- ・設立 昭和37年(1962年)
- ・資本金 1,000万円
- ・従業員数 18名
- ・住所 〒079-1101 赤平市共和町230番地50
- ・電話番号 (0125) 34 - 4133
- ・FAX番号 (0125) 34 - 4130
- ・E-Mail uematsu-electric@wine.ocn.ne.jp
- ・URL <http://uematsu-electric.fte.jp> 植松電機
<http://www.camuispaceworks.com/> カムイスペースワークス

リサイクルから宇宙開発まで、『未来』を 創るパイオニア

植松電気は植松清氏の手により芦別市で産声を上げ、炭鉱用の特殊機械や車両電装備品の修理を担って来ました。その時に培った技術を基に、建設ショベルに取り付ける超軽量マグネットの開発に成功し、今ではリサイクル用バッテリー式マグネットシステムの国内トップシェアを誇っています。世界的な鉄不足の中、建設廃材の中から鉄を的確に選りすぐる技術は益々異彩を放つものになるでしょう。そして、某大企業で航空機の空力設計に従事していた息子の努氏が帰郷してからは宇宙産業にも参入し、本道の代表的なパイオニアとして『未来』を切り開いています。

50mの無重力実験施設は赤平の、そして北海道の希望の塔

本道が振興を目指す航空宇宙産業を純粋な民間企業として推進しているのが植松電機です。航空宇宙産業の産学官コーディネーターであるNPO法人「北海道宇宙科学技術創成センター(HASTIC)」の主要メンバーとして活動を支援しています。その象徴と言えるのが、プラスチックを燃料とする極めて安全性が高いハイブリッド型ロケット『CAMU』の開発と50mを超える無重力実験施設。これらの優れた技術に注目して、昨年2006年、HASTICとアメリカの「ロケットプレーン・キスラー社」の業務提携も実現しました。同社はNASAから次期スペースシャトルの開発を受託し、さらに2008年から宇宙観光旅行のサービスを試行するなど、宇宙産業の本場アメリカの中で最先端を歩んでいる企業です。植松電気の数地から大地にそびえる無重力実験施設は今や赤平市の顔となり、北海道の希望の塔と言えるでしょう。

背中に輝く【UE】の文字は、社員1人1人の自信とプライドのシンボル

植松電機の第3工場はまるで大学の実験棟です。屋上に天文台が設置されたその建物では『CAMU』ロケットのエンジンの改良が続けられ、昨年9月に宇宙に飛んだ道産初の小型衛星『ヒットサット』の組み立ても行われました。大学の教授や学生が実験を行い、夏休みには道内各地から約200人の親子が集まって宇宙教室も開かれるその中で、背中に【UE】の文字が表れた植松電機の社員も、スタッフとして生き生きと活躍しています。【UE】は時代の先端を歩む従業員の自信とプライドのシンボル。いつの日か、【NASA】と【UE】が並び称せられることを期待しましょう。

空知ビジネスサークル【そらび】会員の横顔

専務取締役 植松努(うえまつとむ)さん

(株)カムイスペースワークス代表取締役)



【そらび】のリーダーでもある植松努さんは、昨年12月に日本で唯一の民間ロケット会社「(株)カムイスペースワークス」を北大の永田教授と共に設立し、代表に就任するなど、ともかく夢を叶えるため精力的に動いています。

この情熱と夢は、同社のシンボルマークである父の清さん【手】により育まれたものと思いますが、努さん自身も各地の小学校に出向き、ミニロケット図工教室を通じて児童の科学的興味と夢を引き出しています。いつも照れくさそうに「人を育てることこそ企業の使命ですよ」と語る努さんの理念は、親子代々伝わる人間力の源のようです。

